

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・課題ごとに資料集の参考ページを紹介し、知識・技術の向上を促すことができた。
- ・発想の面で行き詰まらないよう、参考作品を多く紹介し、様々な表現に挑戦できた。
- ・完成させるとはということなのか詳しく解説したことで、全体の完成度が上がった。

(2) 課題

- ・知識・技能がそれぞれの課題でどう生かせるのかを更に理解させたい。
- ・表現に生かせる鑑賞の方法を更に詳しく理解させたい。
- ・全体への指示だけでは活動できない生徒と、より上の表現を目指す生徒の両方への指導。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識や技能を吸収しようと前向きに学習に取り組む生徒が多い。また、全体指導だけでは学習内容を理解できない生徒も少なくない。	それぞれの生徒が、工夫を凝らしながら丁寧に作品を作ろうとしているが、優れた表現や、完成度が高く突出した作品は多くない。	主体的に学習に取り組む生徒は多いが、自分の考えや作品に対して自信がない生徒もみられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能ともに定着が十分な生徒が多く見られる一方、学習の定着が不十分な生徒も多く、二極化の傾向がみられる。	豊かな感性をもつ生徒が多く見られる一方で、表現を探究することに前向きでない生徒や、自分なりの表現で制作に取り組むことが苦手な生徒もいる。	主体的に学習に取り組む生徒が多いが、個別に支援が必要な生徒が多いため、さらに作品をブラッシュアップさせていきたい生徒への指導が手薄になりがちである。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2学年と同様に、知識・技能ともにかなり高い生徒が多く見られる一方、学習の定着が不十分な生徒も多く、二極化の傾向がみられる。	全体として、豊かな表現ができる生徒が多いが、課題や教材により凡庸な表現にとどまってしまうこともある。	学習に対して意欲的な生徒が多く、教員に対して熱心に質問をしてくる生徒が多いが、主体性に向け制作が滞りがちな生徒の人数が多く個別に指導する時間の確保が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題の説明の具体性を高め、作業工程や学習の流れを提示することで、生徒がスムーズに学習を進められるようにする。また、全体指導だけでは学習内容を理解できない生徒には、個別に指導や説明をすることで内容理解を促す。	作品を作り始める前の段階で、様々な方向に突出した豊かな表現をもつ作品事例を紹介する。そのことで、生徒の自由な発想を引き出し、形にすることができることを理解させる。	日ごろから生徒一人一人の表現を価値づけていくことを意識し、自己の表現を探究することの大切さを伝える。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 知識、理解が不十分な生徒や、さらに知識・技能を伸ばしたい生徒に対する指導・フォローに注力する。 - 全体指導だけでは学習内容を理解できない生徒には、個別に指導や説明をすることで内容理解を促す。	様々な作品事例を紹介し、生徒の思考を広げる。日ごろから生徒一人一人の表現を価値づけていくことを意識し、自己の表現を探究することの大切さを伝える。著作権のあるものを参考にする場合は必ずアレンジするよう指導する。	課題の説明の段階で、主体的に学習に取り組むとは、美術において、また各課題ではどういうことを指すのか説明する。それにより生徒全体への理解を深め、個別指導を必要とする生徒へ対応する時間を捻出する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 知識、理解が不十分な生徒や、さらに知識・技能を伸ばしたい生徒に対する指導・フォローに注力する。 - 全体指導だけでは学習内容を理解できない生徒には、個別に指導や説明をすることで内容理解を促す。	課題内容を考慮してデザイン等を考えるよう、また、作品のコンセプトをプレゼンテーションできるレベルまで深堀するように課題に取り組む最初の段階で指導し、一度の説明では理解できない生徒へ対応する時間を捻出する。	課題の説明の段階で、主体的に学習に取り組むとは、美術において、また各課題ではどういうことを指すのか説明する。それにより生徒全体への理解を深め、個別指導を必要とする生徒へ対応する時間を捻出する。